

神奈川県七島巡り 2020



2020年7月

旅のチカラ研究所 植木圭二

神奈川県七島巡りと称して妻と日帰りのドライブ旅行で島を巡ってきた。神奈川県に島のイメージを持つ人は少ないだろうが、神奈川県の島でも十分に観光やレジャーを楽しむことができることが分かった。

■島の旅

私は島の持っている独特な雰囲気が好きで、もっと島に行きたいと思っているのにも関わらずあまり行けていない。理由は島に渡る手段が限定されており時間がかかることだろう。しかしながら日本には魅力ある島がたくさんある。

いったい日本にはいくつの島があるのか。

日本の島を紹介した本を読むと、日本の島の総数はおおよそ 6000 島。“おおよそ”という文言が付く理由は、どのくらいの大きさから島と定義するかでだいぶ変わってしまう。小さな岩礁まで数えると切りがない。さらに人工島もあり、その定義によって総数はかなり幅がある。その中でも人が住んでいる島はおおよそ 400 島というのだが、こちらも住民票だけおいている島や、実態が分からない島もあるらしい。

岩礁のような島を除き、国内で私が行ったことのある島を数えると 40 島ほどになる。意外に少ないというのが正直な感想だ。

インターネットで調べてみると神奈川県には 20 以上の島がある。その中には茅ヶ崎海岸の有名な「烏帽子岩」のような岩礁や、「扇島」のような人工島を含めており、20 という数字にはやや無理があるかもしれない。

それでも今回私は神奈川県にある特徴ある 7 つの島を選んで、神奈川県七島巡りを企画した。

■八景島（はっけいじま）

今回の旅で最初に訪れたのは横浜市金沢区にある八景島で、シーパラダイスという遊園地で有名だ。そのシーパラダイスのキャッチコピー「恋する遊び島」は何故か今でも私の脳裏に焼き付いている。

八景島は実は人工島で自然の島ではない。大きさは約 240000 m²、正方形にすると一辺は 500m 弱でそれなりに大きい。実際には入り江があったりするのでもっと大きく感じて、とても人間が造った島には思えない。

横浜市のこの付近は古くから埋め立てと開発が行われており、市民が海のレジャーを楽しむ海岸はほぼ全てなくなっていた。そのため横浜市は 1971 年「海の公園計画」を発表した。それには民間企業の力を借りて人工島を造る計画もあり、1985 年に埋め立てを開始、1991 年に西武グループが株式会社横浜八景島を設立し、1993 年に八景島シーパラダイスが開園した。



<八景島全景及びシーパラダイス シーパラダイスの HP より >

新型コロナウイルス感染症の影響とまだ梅雨が明けていないこともあって、人影はまばらだった。園内には様々な施設があり十分に楽しめそうで、交通の便もよくこの立地条件を利用しない手はないと夫婦の間ではいつか孫を連れて来たいという話で盛り上がった。

普通の遊園地と違う点は、海に浮かぶ人工島なので海のアトラクションが多いことだが、時代を反映してかロッククライミングのアトラクションが目にとまった。

■野島 (のじま)

八景島から南西に 1km くらいのところに野島がある。大きさは八景島よりやや大きい程度だが、地図を見ないとここが島だと分らない。それは島ということを全く意識せずに入島できるからで、島に渡るために橋が 3 本架かっているが、どこにでもある川に架かっているような橋なので普通に川を渡った感じしかしないからだろう。

島の内部は、簡単に言うと半分は住宅密集地で、残りの半分は野島公園という公園になっている。公園には野球場や青少年研修センターもあり、そして標高 57m の野島山がある。

山の頂上まではうっそうとした樹々の中に最近整備された新しい階段で登る。私は階段を登りながら 300 段までは数えたが、それ以上は数えるのをやめた程の長い階段が続く。

頂上は広場になっていて適度に木々があり、数人の人がベンチに座ってのんびりとしている。さらに広場の小高い部分には展望台があり、それはまだ新しく驚くほど立派だ。ここから三浦半島や、先ほど行った八景島も見ることができて眺めがいい。この山に登って野島は意外に良いところだと思い始めた。



<野島山頂上を目指す階段>



<頂上の展望台>

階段はきつかったが、いい運動になる。近くの住民は毎日ここにウォーキングに来ることができると思うと羨ましい限りだ。不便さを全く感じない、生活するには良い島かもしれない。

■琵琶島（びわじま）

先ほどまでの野島は小さな入江の入口付近にあって、その入江の一番奥に琵琶島がある。野島からは歩いて 10 分程で行ける。琵琶島には小さな社（やしろ）があるだけで人は住んでいない。

妻にここが琵琶島だと教えると、「これ、島？」という返事が返ってきた。横から見ると短い橋が架かっているもののとても島には見えない。



<琵琶島の全景 横浜金沢観光協会の HP より>

■猿島（さるしま）

今までの3島は全て横浜市金沢区にあったが、次は隣の横須賀市に向かった。横須賀には吾妻島（あづましま）という大きな島があるが、現在は米海軍の施設なので一般人は入島できない。

横須賀の中心部の海岸に三笠公園がある。ここに戦艦「三笠」が展示されており、公園に入ったらすぐにその雄姿を見ることになる。三笠の手前には東郷平八郎の像があって、日露戦争で旗艦を務めた三笠とのツーショットを撮ることができる。三笠の艦内は内覧できるが、今回は島の旅なので次の機会にすることとした。



<戦艦三笠と東郷平八郎の像>

その三笠の隣から沖合に浮かぶ猿島に渡る船が出ている。小さいが立派なターミナルビルがあって、その中に軽食を提供する店がある。そこに猿麺という面白そうな名前の麺があったので注文した。

猿麺は冷麺で、取って付けたように猿のかまぼこが真ん中に浮かんでいる。実はこの猿麺は猿島周辺で養殖されたワカメを広めたいということで、緑色の麺は、そのワカメを練りこんでおり、具にもワカメが多く乗っている。食べてみると結構いける。いや、かなり美味しい。予期せぬことに感激する。



<猿麺>

船は1時間に1便出ている、約10分で猿島に到着する。到着した船は5分後に引き返すので、私たちは次の便で帰ることにし、滞在時間は約1時間ということになる。

船には50人くらいは乗れそうだが、私たちが乗った時の乗客は20人ほどだった。驚くことは若い人が圧倒的に多いことだ。中高年ばかりだと予想していたが、全くその逆で見事に予想が外れる。それはむしろ歓迎すべきことで、猿島はそんなに若者に人気があるのだろうか、疑問も期待も膨らんで短い船旅を楽しむことになる。

猿島は東京湾に浮かぶ無人島で、もちろん自然の島である。面積は約 55500 m²で八景島の 1/4 くらいで、おおよそ 400m×150m で横に長く、形は四国に似ている。

場所は東京湾の入口の一番狭い場所の神奈川県側に位置している。そのために昔から首都防衛の拠点になっており、幕末には国内初の砲台が造られ第二次世界大戦ではさらに強化されて島全体を要塞化した。

旧日本軍は東京湾入口の千葉県側に同じく首都防衛のために人工島の第一海堡、第二海堡を造った。こちらも現在残っており昨年から見学ツアーが実施されている。

猿島は第二次世界大戦後の 1961 年まで米国が管理し、現在は横須賀市が所有し「猿島公園」となっている。そのため船のチケット購入と同時に入園料 200 円が徴収される。

要塞跡の孤島ということから映画やテレビドラマの撮影が多く行われて、「仮面ライダー」では悪党軍団ショッカーの基地があるとされた。無人島とはいえ来島する観光客は年間約 20 万人と多い。

興味深い取り組みもしている。観光客から注文を受けた横須賀市内のスーパー西友が、BBQ の材料やビールなどをドローンで猿島へ商品を届けるというもので、夏季限定で実施されている。

そしていよいよ猿島に上陸する。無人島なので施設は何もないかと思っていたが、そうでもない。船着き場の近くにはビーチが広がり、ビーチを臨むようにウッドデッキがあり、テーブルが置かれパラソルも開いている。ウッドデッキと一体になるよう木でできた大きな半円形の 2 階建ての洒落た建物があり、レンタルショップ、売店、軽食を提供する店などが入っている。

年間 20 万人も来島者がいれば、結構な商売になるから当たり前かもしれないが、各施設はうらぶれておらず比較的新しい。これはいかにも若い女の子が好きそうな感じがする。



<船着き場付近のウッドデッキと建物>

早速私たちは島内散策に出かける。船着き場から反対側の海岸に出る道がメインストリートになっている。それは緑の木々に覆われた切通しや要塞のなごりの石垣に囲まれて足元も整備されている。日本最古のレンガ造りのトンネルもあり、ひんやりとした空気に包まれて時折夏の日差しが射し込むので暑さをしのぐには実に快適だ。木々の緑、要塞跡に生える苔、戦争が終わっておよそ 80 年経過して独特の雰囲気を出している。この雰囲気が人気の理由だろう。特に夏は海水浴や BBQ もできるから歴史や戦争だけでなく、レジャー基地として楽しめる。



<切通し 左の階段で展望台に行く>



<展望台 現在は立ち入り禁止>



<照明が点いたレンガ造りのトンネル>

島内を歩いていると、出会う観光客は若い女性グループ、カップル、若い女性一人旅といった人たちが多く。

そんな中、浴衣姿をしたモデルらしき女性と撮影クルー数人とすれ違った。私は思わず妻と顔を見合わせて、「え、撮影でここに来るの?!」という驚きの声を発した。しかし、よく考えたら浴衣姿の艶めかしい女性ならば、この島の独特な雰囲気にはとても似合いそうだ。ショッカー軍団だけの基地で終わらせてはもったいない。そういえば大きなカメラを持ったアマチュア写真家にも多く出会う。



<切通しに石垣>

そして別の驚きがあった。船着き場の反対側の展望台の下の岩場で中年女性が倒れており数人に囲まれて手当てを受けていた。私はてっきり熱中症かと思ってその近くを通り過ぎたが、妻は「岩場で転んで頭を打ったみたい」と言っている。頭をタオルで覆って、タオルには血がにじみ出ていたという。動かさないので応急手当てをして助けを待っているらしい。

私たちが船着き場に戻ろうと歩いていると横須賀市消防局というユニフォームを着た数人とすれ違った。人数を数えると7人、ストレッチャーも押している。誰かが救急隊を呼んだらしい。しかしどうやって島に渡ってきたのだろうか。ヘリポートはないから船で来たのは確かだが、そのような船は船着き場には見当たらない。

救急隊員たちは患者をストレッチャーに乗せて私たちと同じ船で三笠公園の船着き場に戻った。三笠公園には救急車と消防車が待機していた。

■城ヶ島（じょうがしま）

私は三浦半島の先端、神奈川県最南端の城ヶ島を目指して車を進めている。城ヶ島は面積約1k m²、八景島の約4倍、神奈川県最大の自然島だ。東西南北にそれぞれ岬があり、西の端にある城ヶ島灯台は日本で5番目に点灯した西洋式灯台で、由緒正しい(?)島だ。

しかし伊豆半島の伊東にある城ヶ崎と混同する人も多いという。かく言う私も昔そうだった。

地質学的には貴重な島らしい。島の東西で岩質が異なり、そのために島のほぼ中央に断層がある。隆起を繰り返したため露出した岩には褶曲という地層が曲がりくねった姿が見られる。

また南北でも様相が異なっている。北はマグロで有名な三崎港の対岸で、漁港があつて各種建物も多く、島民の生活の場が広がっている。南は太平洋に面して断崖で自然がそのまま残っており人は容易に近づけない。



<島の西端 海岸に突き出した褶曲の岩>

色々な側面がある島なので、本来は1日かけてゆっくり見るべき島なのかもしれない。

島に渡る城ヶ島大橋を通過する。橋は1960年に開通し、全長575m、海面からの高さは約23m、島といいながらもこの橋によって60年前から陸続きになった。そのため何度も来ている私には昔から島という感じがしない。

しかし今回城ヶ島大橋の料金所には今年4月から無料になったと看板がかかっており、その看板に感激した。

島内には新鮮な魚料理を食べさせてくれる店が多く、その料理目当てにそれなりに観光客も来ているようだ。残念ながら私たちは猿糞を食べってしまったので昼食は間に合っており、島を後にした。

■天神島（てんじんじま）

三浦市から横須賀市に戻り、横須賀市の相模湾側にある佐島マリーナにやって来た。かつて友人のヨットが佐島マリーナに置いてあって、その友人家族と私の家族とでヨットを乗りここに来たことがある。

実は佐島マリーナは天神島という島にあるが、昔来た時は島だとは思わなかった。陸地からは天神橋という小さな橋で繋がっているが、車で通過すると橋だと気が付かない。

天神島は、周囲 1km 程で面積は八景島のおおよそ 1/4、猿島と同程度の大きさになる。

橋を渡るとビジターセンターがあり、残念ながら本日は月曜日のため休館日だった。ビジターセンターは天神島臨海自然教育園の拠点で、天神島とその沖にある岩礁のような笠島の自然環境を保護している。天神島には神奈川県天然記念物ハマオモト（ハマユウ）が生息しており、砂浜や磯もある。次回はビジターセンターが開いている時に来てみたい。



<天神島に渡る天神橋>



<天神橋の欄干、島との間の水路>

■江の島（えのしま）

今回の神奈川県七島巡りの最後の島は江の島になる。神奈川県藤沢市、湘南地域にある有名な島なので今さら説明する必要もない。この島は江の島神社とその参道が観光スポットで観光客が多いが、その反対側や島内一周するのがお勧めだ。

もちろん私たちは何度も訪れており今回は時間もないので立ち寄らずに、通り抜けた。

■旅の記録

2020年7月20日（月）に実施した日帰りドライブ旅行になる。行程は本文記載の通りで、費用は2人で概ね8500円、その詳細は以下に記す。

- ・八景島手前の駐車場代 1500円（1日券のみ、八景島内には駐車場がない）
- ・猿島への渡船費用、往復一人 1600円（1400円が渡船代、200円は入園費）
- ・昼食の猿麵一食 500円
- ・猿島へ渡るための駐車場代 840円（2時間）
- ・ガソリン代と有料道路費用合わせて約 2000円